平成22年（2010年）
第1334号
1月1日

にしのみや 西宮市政ニュース

Nishinomiya Muni. Bulletin

毎月10日・25日 発行
発行／西宮市役所
〒662-8567 西宮市六湛寺町10番3号
TEL／0798-35-3151（代表）
編集／総合企画局市長室広報課
TEL／0798-35-3400
Eメール／vo_kouhou@nishi.or.jp

今号の主な記事

◇人が集い 活気あふれる「西宮北口」……4・5面
◇震災から15年～あの日の記憶 後世に ……2面
◇市営住宅の入居者募集 ……2面
◇新春クイズ「にしのみや虎の巻」 …8面

夢.. 想い.. 希望

絵・上嶋　恵津子（西宮美術協会会員）

21世紀が若者たちに夢の持てる時代であるように

（京都産業大学教授）

明けましておめでとうございます。

新年といえば昨年の事を振り返り、今年の抱負を語るのが定番であろうが、新年にそのような事をした事がない。研究の上では、問題の分析と進行のシミュレーションみたいな事は随時している。だが新年の初めだからといって特別な事はしない。

しかし、正月になると男子まで含めて和装姿の若者たちを見かける事が多くなった。これは年々派手になる成人式が間近である事が関係しているのであろうか。成人式といえば青年たちが社会に巣立って行くのをお祝いする式典であるが、その巣立つ先の社会は若者たちが夢の持てる社会といえるであろうか。

私の二十歳のころは戦後から15年程過ぎたころで少し落ち着きが見え出したころである。物は無いが戦後民主主義の余韻の中、妙に明るかったように思う。領土も狭く資源は無いので、これからの日本は科学・技術で生きて行く他はない、と科学に夢を託していた。

今の時代はどうであろうか。大人は胸を張って「若者よ夢を持て」と言う事が出来るであろうか。「もうける事は悪い事ですか？」と、テレビの中で啖呵（たんか）を切っていた人がいたが、もうける事が問題でなく、そのやり方が問題になっている事をその人物は気づいていない。

私は最近良く、努力しなくても夢中で取り組めるものを見つけよ、と言っているが、それを捜し出せるような社会にするのは大人の責任であろう。